

大宰帥大伴卿、冬ふゆの日に雪ゆきを見て、みやこ京
を憶おもふ歌うた一首

一六三九番

沫雪あわゆきの ほどろほどろに 降り敷ふけば 奈良ならの都みやこ
し 思おもほゆるかも

大宰帥大伴卿の梅うめの歌うた一首

一六四〇番

我が岡をかに 盛さかりに咲さける 梅うめの花はな 残のこれる雪ゆきを
まがへつるかも

角朝臣広弁の雪梅せつばいの歌うた一首

一六四一番

沫雪あわゆきに 降ふらえて咲さける 梅うめの花はな 君きみがり遣やらば
よそへてむかも